

Casting  Our Eyes
on the Future

視線はまっすぐ未来へ



Financial Report

第95期年次報告書

平成27年4月1日～平成28年3月31日



Ahresty
株式会社 アーレスティ

証券コード：5852

Casting Our Eyes on the Future

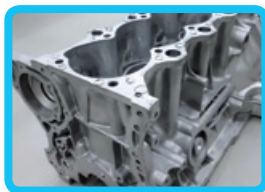
視線はまっすぐ未来へ

タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アーレスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアーレスティ自身の未来へ向けられ、Research (研究・開発)、Service (サービス)、Technology (技術) において常に主導的リーダーに立ち前進しようという企業姿勢を具現化したものです。

なお、“Casting”は、“投げかける”という意味の他に、当社の主要事業である“Die Casting”の意味も込めています。

タグライン：タグラインは、アーレスティブランド、企業理念を社内外へ発信する究極的なメッセージであり、コーポレートシンボルとセットで使われる言葉です。

製品別概要

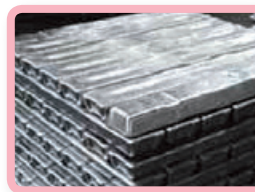


ダイカスト事業

高い技術を駆使し、自動車のエンジン、足回り、ボディなどのダイカスト製品を製造・販売しています。

アルミニウム事業

缶、サッシ、自動車スクラップなど、多様な原料をもとに、高品質のアルミニウム合金地金を製造・販売しています。



完成品事業

コンピュータールーム、クリーンルームなどの建築用床材料等を製造・販売しています。



(a:resti)

これからは、より質の高い
 Research、Service、Technologyを
 追求していきます。

アーレスティはR・S・T、Research、Service、Technologyこれらの三つの言葉の統合ですが、Rは単に研究・開発だけでなく、どうしたらもっとお客様のお役に立てるかの創意と探求、Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点で、そしてTはこのRとSをささえる知識と技術を考えています。この社名に込められた企業理念を大切に生かし、様々な製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

CONTENTS

株主の皆様へ	2
経営基本方針	3
コンプライアンス基本方針	4
環境方針	4
事業の概況	5
事業別の概況	6
連結財務諸表	7~8
トピックス	9
株式情報・会社の概要・株主メモ	10

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第95期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)の事業の概要につきまして、ご報告いたします。

今後とも事業の発展に全力を尽くしてまいり所存です。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年6月



代表取締役社長

高橋 新

経営
基本方針

常に生きいきと活動し理論と実験と創意と工夫を尊重して、
品質のすぐれた製品と行き届いたサービスを提供しよう

(1) 経営の方針

当社グループの長期的な経営の方向性を示した「10年ビジョン」では、「信頼を究めよう 2025」を基本方針に、「お客様からの信頼No.1」「グローバルで車の軽量化に役立つ」「売上高2000億円+α」をありたい姿とし、お客様からの信頼を究めつつ、安定して持続的に成長していくための基本戦略を事業戦略、機能別戦略、マネジメントの取組みとして定めております。

2016年度からスタートした新たな1618中期経営方針では、ものづくりを究め進化させ、アーレスティプロダクションウェイを確立することを基本方針に、次の5つを柱として、全従業員が積極的に活動し計画達成を目指して全力で取り組んでまいります。

1. 大型高難易度製品の顧客評価No.1を実現する
大型で要求品質の高い部品のQCDを向上させることで顧客評価No.1を目指す。

2. ものづくりを究める
グローバルでしくみを統一し、同質のものづくりと品質を実現する。
3. 生きいきと活動する会社を築く
RST Wayを実践できる企業風土づくりと人材を育成する。
4. 収益力を高める
ものづくりを究める施策で製造原価を低減するとともに、収益管理の質を高める。
5. リスク管理を徹底する
BCPの訓練等により想定リスクに対する事業継続力を高める。

なお、2018年度の目標値は、売上高：1,500億円、売上高営業利益率：5.5%、総資産当期純利益率：3%、自己資本当期純利益率：7%としております。

(2) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主をはじめとする全てのステークホルダーに対する経営責任と説明責任を明確にするとともに、高い透明性を持ち、迅速な意思決定が可能な経営体制を確立することで、当社グループ全体での収益力の拡大と経営と資本の効率を高め、企業価値の増大を目指しております。さらには内部統制システムとリスク管理体制を充実させ、グループ子会社の事業活動についても管理・監督を行う経営システムの構築を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針と考え、重要な経営課題であると認識をしております。

2015年6月には取締役会の監督機能の強化によるコーポレート・ガバナンスの一層の充実という観点から、監査等委員会設置会社への移行を行い、経営課題や業務執行について社外取締役から意見をもらい活発な議論を行ってまいります。

また、2015年6月から適用開始されたコーポレートガバナンス・コードについても、当社のガバナンスの実効性向上に向けて積極的に対応を行っております。

コンプライアンス基本方針

株式会社アーレスティは、コンプライアンスの基準として、この基本方針を制定し、役員及び従業員は、自らの行動又は業務遂行のための行動において、これを遵守します。

- 1 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
- 2 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
- 3 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
- 4 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
- 5 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
- 6 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
- 7 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
- 8 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。
- 9 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動します。
- 10 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。
- 11 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体に対しては、毅然とした態度をもって対応し、不当な要求や取引の要請等は断固として排除します。

環境方針

かけがえのない地球を守るのは私たちの大切な役割です。株式会社アーレスティの環境への取組みをご紹介します。

- 1 私たちは私たちの開発、生産、販売、廃棄の活動が地球環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、環境目的・目標・実施計画を定め、それらを必要に応じて見直し、環境保全活動の継続的な改善をはかります。
- 2 私たちは国・地方公共団体・利害関係者などの環境規制、規則、協定などの要求事項を順守し、さらに技術的・経済的に可能な範囲で自主基準を定め、一層の環境保全に取組みます。
- 3 私たちは特に次の事項について優先的に活動し、環境保全と汚染予防に取組みます。
 - ①大気汚染、水質汚濁に関する施設・工程の管理・改善を徹底します。
 - ②廃棄物の再資源化100%を維持します。
 - ③廃棄物総排出量の減量、アルミリサイクル事業の拡大を推進し、循環型社会へ貢献します。
 - ④CO₂排出の抑制をはかり、地球温暖化防止への配慮をします。
 - ⑤環境に配慮した製品及び商品の開発・設計に取組みます。
- 4 私たちは従業員一人ひとりの環境保護意識の向上をはかるため、教育・啓蒙活動を継続的にを行います。
- 5 私たちは良き企業市民として、地域社会の環境保全に努め、地域との共生をはかります。

～私たちはこの環境方針を社内外を問わずに公表いたします～

事業の概況

Financial Highlights

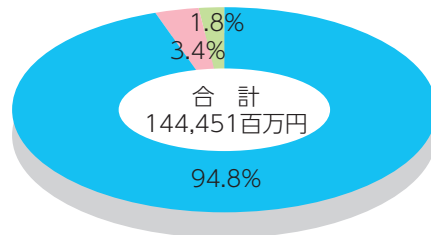
■企業集団の事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、個人消費に底堅い動きが続いており、企業収益の改善がみられるなど、緩やかな回復基調が続いております。海外においては、アメリカの景気は回復が続いており、アジアでは中国の景気が緩やかに減速しているなど、世界の景気は弱さがみられるものの、全体としては緩やかに回復しています。

このような環境の中で、北米を中心とした生産能力拡充を進めると共に、信頼を究めることを基本とし、ものづくりに焦点を当てた施策展開を進めました。

当連結会計年度の業績については、売上高は144,451百万円（前期比4.1%増）、営業利益は5,385百万円（前期比113.6%増）、経常利益は4,077百万円（前期比151.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は3,062百万円（前期比190.3%増）となりました。

■事業別売上の状況

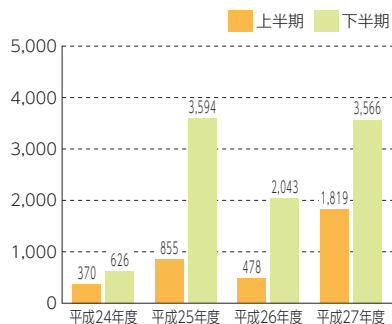


ダイカスト	136,938百万円
アルミニウム	4,921百万円
完成品	2,590百万円

■業績の推移 (連結)

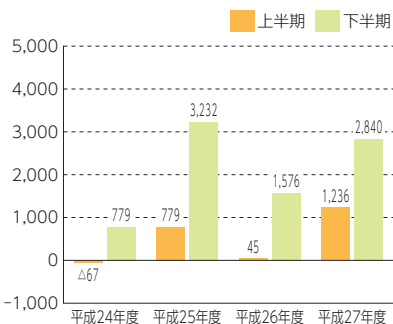
■営業利益

(単位:百万円)



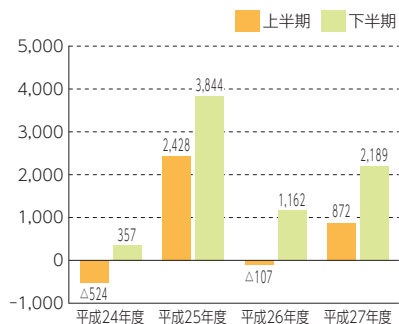
■経常利益

(単位:百万円)



■親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



事業別の概況

Financial Highlights

ダイカスト事業

①ダイカスト事業 日本

国内では、主要顧客である自動車メーカーにおいて、消費増税以来続く販売不振、軽自動車税引き上げによる国内販売の減速が続いています。一方で北米市場向けを中心とした輸出は好調を維持しています。これらの背景のもと、当社受注量はほぼ昨年同様となり、売上高は63,583百万円（前期比0.6%増）となりました。収益面においては、主に減価償却費の増加等により、セグメント利益は2,769百万円（前期比14.3%減）となりました。

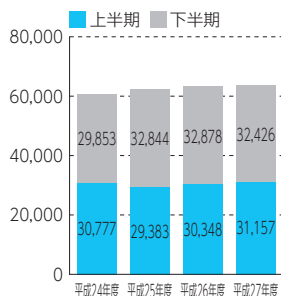
②ダイカスト事業 北米

北米では、過去最高水準となる自動車販売の影響を受け受注が増加し、また、部品の新規立ち上がりや、円安基調にある為替換算影響などもあり、売上高は45,760百万円（前期比12.6%増）となりました。収益面においては、生産性改善等の施策によりアメリカ工場及びメキシコ工場の収益が改善したこと等により、セグメント利益は1,521百万円（前期はセグメント損失1,295百万円）となりました。

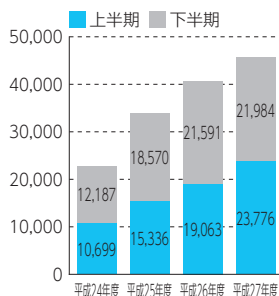
③ダイカスト事業 アジア

中国では、主要顧客である日系自動車メーカーの車種別販売動向等の影響を受け受注は減少しました。インドでは、新規部品の量産開始効果により売上が増加しました。これらの影響に加え円安基調にある為替換算影響等により、アジアでの売上高は27,594百万円（前期は売上高27,584百万円）となりました。収益面においては、インド工場における収益改善等の影響や中国における原価低減活動の効果があつたものの、中国での受注減少の影響が大きく、セグメント利益は573百万円（前期比13.5%減）となりました。

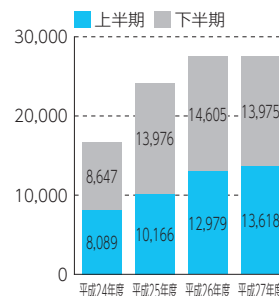
■売上高 日本(連結) (単位:百万円)



■売上高 北米(連結) (単位:百万円)



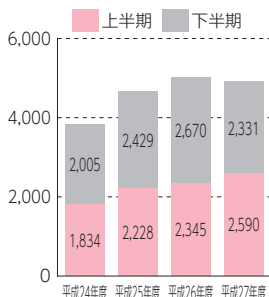
■売上高 アジア(連結) (単位:百万円)



アルミニウム事業

アルミニウム事業においては、受注量が前期比で微減となったこと等により、売上高は4,921百万円（前期比1.9%減）となりました。収益面においては、原材料市況変動による影響と原価低減活動による効果等により、セグメント利益は338百万円（前期はセグメント利益5百万円）となりました。

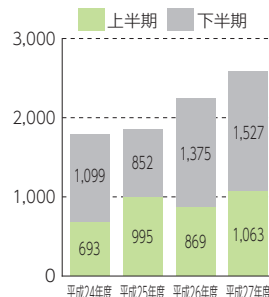
■売上高(連結) (単位:百万円)



完成品事業

完成品事業においては、主要販売先である半導体関連企業のグリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注により、売上高は2,590百万円（前期比15.4%増）となりました。収益面においては、主に増収による増益効果等により、セグメント利益は212百万円（前期比153.3%増）となりました。

■売上高(連結) (単位:百万円)



連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期	科 目	当 期	前 期
	平成28年3月31日現在	平成27年3月31日現在		平成28年3月31日現在	平成27年3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	44,181	48,464	流 動 負 債	44,304	48,502
現 金 及 び 預 金	4,505	5,885	支 払 手 形 及 び 買 掛 金	12,065	14,388
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	24,055	24,229	電 子 記 録 債 務	6,053	6,548
電 子 記 録 債 権	2,021	1,450	短 期 借 入 金	4,536	6,187
商 品 及 び 製 品	2,999	4,166	1年内返済予定の長期借入金	10,850	11,806
仕 掛 品	4,006	4,549	未 払 法 人 税 等	475	777
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	3,351	3,887	賞 与 引 当 金	1,568	1,532
繰 延 税 金 資 産	1,091	828	役 員 賞 与 引 当 金	20	13
そ の 他	2,150	3,468	製 品 保 証 引 当 金	121	196
貸 倒 引 当 金	△ 1	△ 1	そ の 他	8,612	7,051
			固 定 負 債	35,929	38,225
固 定 資 産	97,512	100,367	長 期 借 入 金	27,062	28,845
有 形 固 定 資 産	85,806	88,133	長 期 未 払 金	1,671	137
建 物 及 び 構 築 物 (純額)	16,434	16,737	繰 延 税 金 負 債	3,553	3,502
機 械 装 置 及 び 運 搬 具 (純額)	48,376	49,570	退 職 給 付 に 係 る 負 債	2,985	4,816
工 具、器 具 及 び 備 品 (純額)	7,295	8,127	そ の 他	655	923
土 地	5,268	5,294	負 債 合 計	80,233	86,728
リ ー ス 資 産 (純額)	707	811	純 資 産 の 部		
建 設 仮 勘 定	7,724	7,591	株 主 資 本	52,311	49,545
無 形 固 定 資 産	1,628	1,541	資 本 金	6,939	6,939
投 資 其 他 の 資 産	10,077	10,692	資 本 剰 余 金	10,180	10,180
投 資 有 価 証 券	6,201	7,160	利 益 剰 余 金	35,462	32,730
繰 延 税 金 資 産	3,499	3,077	自 己 株 式	△ 271	△ 304
そ の 他	376	454	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額	9,017	12,446
貸 倒 引 当 金	△ 0	△ 0	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	2,875	3,468
			為 替 換 算 調 整 勘 定	6,772	9,301
資 産 合 計	141,694	148,831	退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	△ 629	△ 324
			新 株 予 約 権	131	111
			純 資 産 合 計	61,460	62,103
			負 債 純 資 産 合 計	141,694	148,831

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期
	平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで	平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで
売 上 高	144,451	138,727
売 上 原 価	128,271	125,865
売 上 総 利 益	16,180	12,861
販売費及び一般管理費	10,795	10,340
営 業 利 益	5,385	2,521
営 業 外 収 益	482	471
受 取 利 息	17	18
受 取 配 当 金	153	127
ス ク ラ ッ プ 売 却 益	115	141
そ の 他	195	184
営 業 外 費 用	1,790	1,370
支 払 利 息	1,260	1,254
為 替 差 損	448	50
そ の 他	81	66
経 常 利 益	4,077	1,622
特 別 利 益	80	150
固 定 資 産 売 却 益	15	51
補 助 金 収 入	65	99
特 別 損 失	397	121
固 定 資 産 除 売 却 損	140	121
退 職 給 付 制 度 改 定 損	257	-
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	3,760	1,651
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	862	812
法 人 税 等 調 整 額	△ 164	△ 215
当 期 純 利 益	3,062	1,054
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	3,062	1,054

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期
	平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで	平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,062	12,502
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 14,648	△ 15,211
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,372	△ 538
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 326	245
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 1,283	△ 3,002
現金及び現金同等物の期首残高	5,789	8,791
現金及び現金同等物の期末残高	4,505	5,789

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

トピックス

Topics

● (株)アーレスティ栃木 第6工場増設 一部稼働開始

当社子会社である(株)アーレスティ栃木では、受注量増加に伴う能力増強のため第6工場を増築（建物は2015年9月竣工）し、設備工事を行っております。

ダイカストマシンの設置は既に完了し、稼働開始しました。ほか、第6工場の設備工事は2016年11月完了を予定しております。

今回の能力増強により月当たりの生産能力は従来に比べ6%増加し3,300トンになる予定です。また第6工場増築にあたり、複数工程の同期化、省人化、在庫削減、製造条件管理など製造ラインにおける理想のコンセプトを掲げております。このコンセプトを実現し今後も品質の優れたダイカスト製品を安定的に供給し、より一層お客様のお役に立てるよう取り組んでまいります。



● 第72回 世界鋳造会議 WFC2016 展示会

2016年5月22日より3日間にわたりポートメッセなごやにて世界鋳造会議 WFC2016 展示会が開催されました。

世界鋳造会議は日本では26年ぶりの開催であり、展示会は盛大に開催されました。

当社はダイカスト製品及び特殊工法の紹介等を展示いたしました。当社の展示するブースには多くの来場者様が見えられ、盛況な展示会となりました。



株式情報・会社の概要・株主メモ

Stock Information・Corporate Information

■株式状況（平成28年3月31日現在）

● 株式数及び株主数

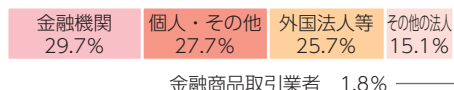
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	26,027,720株
株主数	4,231名

■大株主（上位10名）

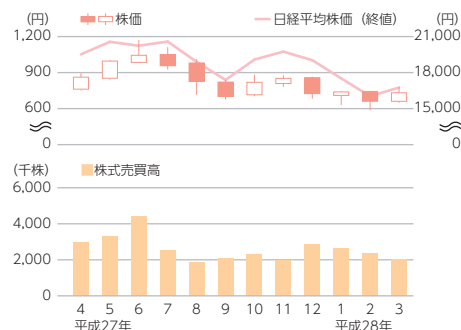
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	2,349	9.0
高橋 新	915	3.5
MSCO CUSTOMER SECURITIES	819	3.1
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口9)	771	2.9
株式会社三菱東京UFJ銀行	765	2.9
日本軽金属株式会社	657	2.5
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS- UNITED KINGDOM	603	2.3
アーレスティ取引先持株会	583	2.2
スズキ株式会社	565	2.1
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	561	2.1

(注) 1. 株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は自己株式(181,586株)を控除して計算しております。

■所有者別株式分布状況



■株価・株式売買高の推移



■会社概要（平成28年3月31日現在）

商号	株式会社 アーレスティ
設立	昭和18年11月2日
資本金	69億3,909万円
従業員数 (単独)	883名

企業集団の従業員の状況

	従業員数
ダイカスト事業日本	2,116名
ダイカスト事業北米	2,723名
ダイカスト事業アジア	2,053名
アルミニウム事業	52名
完成品事業	29名
全社 (共通)	82名
計	7,055名

■取締役（平成28年6月15日現在）

代表取締役社長	高橋 新一	取締役 (監査等委員)	見目 康夫
取締役	野中 賢一	社外取締役 (監査等委員)	早乙女 唯夫
取締役	石丸 博	社外取締役 (監査等委員)	志藤 昭彦
取締役	浦生 新市	社外取締役 (監査等委員)	浜村 承三
取締役	金田 尚之		

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)

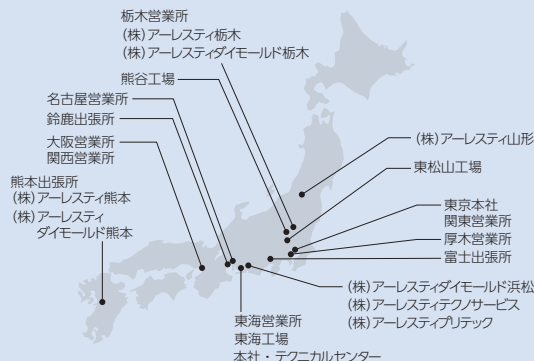
上場証券取引所 東京証券取引所
 公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <http://www.ahresty.co.jp>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■事業拠点一覧 (平成28年3月31日現在)

国内ネットワーク



海外ネットワーク



当社ホームページ

<http://www.ahresty.co.jp>

当社ホームページの「IR情報」では、株主の皆様へ最新情報をお届けしております。あわせてご覧ください。

Research Service Technology

株式会社 アレスティ

東京本社

〒164-0012 東京都中野区本町2-46-1
 中野坂上サンブライツツイン5F
 TEL.03-6369-8660 FAX.03-5358-5331

本社 (本店)

〒441-3114 愛知県豊橋市三弥町中原1番2号
 TEL.0532-65-2170 FAX.0532-65-2163



ISO/TS16949:2009認証取得

東海工場、東海工場 含浸・熱処理工場、
 東松山工場、
 株式会社アレスティ板木、
 株式会社アレスティ熊本、
 株式会社アレスティ山形、
 株式会社アレスティプリテック
 本社/本社工場、
 株式会社アレスティプリテック豊橋工場



ISO9001:2008認証取得
 JQA-QMA14412

東京本社 (但し、商品営業部を除く)、
 本社・テクニカルセンター、
 東海工場、東松山工場、熊谷工場、
 株式会社アレスティ板木、
 株式会社アレスティ熊本、
 株式会社アレスティ山形、
 株式会社アレスティプリテック



ISO9001:2008認証取得
 JUSE-RA-057

商品営業部及び関連組織



ISO14001:2004認証取得

東京本社、東海工場、
 東松山工場、熊谷工場、
 本社・テクニカルセンター、
 株式会社アレスティ板木、
 株式会社アレスティ熊本、
 株式会社アレスティ山形、
 株式会社アレスティプリテック、
 株式会社アレスティダイモールド浜松、
 株式会社アレスティダイモールド熊本、
 株式会社アレスティテクノサービス



見やすいユニバーサルデザイン
 フォントを採用しています。